

ふじかわ

1 月号 昭和59年 1月20日発行 No. 270

町のメモ

昭和59年 1月1日現在	
人口	17,003人
増減	+7人
男	8,358人
女	8,645人
世帯数	4,353世帯
面積	31.09km ²

富士川町 総務課



町のここの目標
「笑顔であいさつ明るい町に」

今年こそは
きっと……
……ように!

写真は 八坂神社初詣で
(円内写真は 奉納する絵馬を久保田為雄神
社総代委員長(右)に手渡す池谷さん(左))

今年も八坂神社や宇多利神社は、福德を祈願する家族づれや若者たちの初詣で客でいっぱいでした。

参詣の帰りには、池谷貞太郎さん(坂下・80歳)が、ねずみ年の干支(えと)にちなみ作成し、両神社に奉納した絵馬500枚が贈られ、初詣で客は大喜びでした。池谷さんの絵馬奉納は、今年で11支目にあたり、来年は12支を満願します。

今年も大きな目標を立て、目標に向かって努力をおこたることなく一生懸命がんばりましょう。

みなさんとともに 明るい豊かな 住みよい 町づくりを

あけましておめでとーうーいいます

富士川町長 常葉 雅文



昭和59年の輝かしい新春を迎え、謹んで心からお慶び申し上げます。昨年における国内外の情勢は、非常に厳しいものがありました。特に国内においては選挙に明けくれ、4月には統一地方選挙があり、当町でも望月議長を中心とした新しい議会がスタートいたしました。6月には比例代

表制を導入した参議院選、12月には田中元首相のロッキード判決による倫理選挙などで、本当にあらただしい一年でした。また増税なき財政再建を目指した国の行財政改革が大きな課題として取り上げられ、第二次中曾根内閣によって更に進められようとしております。海外においては、あの痛ましい大韓航空機墜落事件などの暗いニュースもいくつかありました。

町に目を向けてみますと、共立蒲原総合病院が大楽窪に移転し、5月から新病院での診療が開始されました。また、県企業局による中野地区の宅地造成の促進、野田山保健休養林の造成、富士川第一公園の着手、新町都市下水路の完成、農免農道・林道整備、行革の一環としてのし尿くみ取りの業者による許可制の実施などが重要事業として進められ、着実に成果を上げてお

ります。また青少年健全育成・非行防止対策として、青少年問題対策協議会を設置し、青少年の健全育成や非行防止を進めてまいりました結果、各地で増加傾向にある中学生非行が、当町では殆んど見られないという喜ばしい現状で、関係者をはじめ町民のみなさんのご支援ご協力の賜と深く感謝する次第です。

さて、心新たに今年十二支のスタートの子年であります。富士川町においては、二十一世紀を展望した昭和70年を目標とする第二次総合計画の策定にかかり、明るい豊かな住みよい町づくりを進めていきますが、町民のみなさんとともに英知を出し合って、着実にその施策の遂行に努力していく覚悟であります。

本年は、かねてからの念願であった、中央公民館の建設に着手し、昭和60年10月の完成を目指します。社会教育、芸術文化、コミュニケーションなどの諸活動に広く住民のみなさんが参加しやすい施設づくりを考えております。そのほか、富士川身延線バイパスの早期完成への促進、側溝・排水路の整備、生活基幹道路の整備などの継続事業の促進、広域的に進めている老朽化した富士川橋架替えの促進とともに、教育、福祉面でも後退にならないよう努力してまいります。

健康に留意し、信念をもって諸問題に向って全力を尽くす決意を新たにしたい私ですが、町民のみなさんも健康で明るい家庭を築き、住みよい富士川町にするために、一層のご支援とご協力をお願いして年頭のごあいさついたします。

円満な町政を期して

富士川町議会議長 望月 好 勃



輝かしい新春を迎え、富士川町議会を代表し、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は県議会および私も町議会の選挙に始まり、年末には国政選挙と選挙に明け、選挙に暮れた年でありました。その中

において、町政も県道身延線バイパス、富士川県営団地、矢久保開発、中央公民館、広域行政においては、富士川橋の架替え、庵原斎場、蒲原病院など重要な諸問題に対応してまいりました。これらは町民のみなさんの永い間の悲願であります。本年こそこれらの重要な諸問題に対しまして、町当局、議会、町民のみなさんとともに一丸となつて心機一転対処し、解決を計らなければならぬものと責任を痛感

いたしております。一方、私も議会は常に町民の代表であることを肝に銘じ、町民のみなさんの意志を十分に反映することにも、議会の機能を最大限に発揮し、町民のみなさんの付託に答えるべく努力をしております。私は常に円満第一と考えておりますが、それには聞く耳、思いやりが大切であります。この信条を柱に議長の職責をはたしたいと思っております。

本年は、国も地方も行革下財政で困難が予想されます。しかし、一般的には見るもの聞くもの景気が良くなるといわれております。現に米国は景気がすでに5割上昇していると聞いております。久しぶりにみなさんとともにこの景気にあやかりたいものと念じております。どうか本年も一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。また、町民のみなさんのご多幸をお祈り申し上げます、新年のごあいさついたします。

町消防団出初め式が盛大に 庵原三町消防連合も

1月7日(土)町消防団出初め式が町立第一中学校グラウンドで、また庵原三町消防連合出初め式が蒲原町立蒲原西小学校で行われました。

が表彰を受けました。(敬称略) 新入団員のみなさん

町出初め式は、新入団員11人、昇進団員11人への辞令交付や表彰などを行い、三町連合出初め式では、規律訓練、小型・大型ポンプ操法、分列行進と、両式とも日ごろの鍛練ぶりをいかんなく発揮し、機敏に行動していました。なお両式で、消防団活動に功績のあった功労者や優良団員などの表彰が行われ、次のみなさん他、多数のみなさん



分列行進する分団員(三町出初め式)



辞令を受ける新入団員(町出初め式)

- | | |
|----------------|--------------|
| 清水町 | 宇佐美好正 |
| 昇進団員のみなさん | |
| 本部 | 本通一 加茂徳平 |
| 第一分団長 | 本通三 五十嵐順信 |
| 第三分団長 | 木島 芦川清司 |
| 庵原三町消防連合出初め式表彰 | |
| 消防庁長官表彰 | 相生町 原田時夫 |
| | 南町一 上野 重 |
| 日本消防協会会長表彰 | 功績章 相生町 米倉秀雄 |
| | 勤続章 幸町 望月敏雄 |
| 静岡県消防協会会長表彰 | 特別功績章 |
| | 本通一 加茂徳平 |
| 功績章 | 大北町 佐野静嘉 |
| 特別功績章 | 旭町 齋藤秀夫 |
| | 上町 望月秀浩 |
| 功労章 | 大北町 高岡公男 |
| | 清水町 望月 正 |
| | 大北町 望月 正 |
| | 新町 清水和雄 |
| | 小山 齋藤信司 |
| | 木島 角替 進 |
| | 南町一 佐野臣弘 |
| 町長感謝状贈呈 | 南町一 笹林 明 |
| | 大楽窪区 舟山町区 |

12月定例会

都市計画費や災害復旧などに
五千五十二万円を補正

町議会の12月定例会が、12月22日(木)午前9時から議場で開催され、常葉雅文町長の一般行政報告を皮切りに、昭和58年度一般・国民健康保険特別・水道事業・土地取得特別会計補正予算、富士川町議会山砂利開発特別委員会委員選任について、富士川町職員定年等に関する条例制定について、富士川町農園設置等に関する条例の制定について、大韓航空機撃墜事件に関する意見書等十三議案が審議され、すべて原案どおり可決されました。

町議会の12月定例会が、12月22日(木)午前9時から議場で開催され、常葉雅文町長の一般行政報告を皮切りに、昭和58年度一般・国民健康保険特別・水道事業・土地取得特別会計補正予算、富士川町議会山砂利開発特別委員会委員選任について、富士川町職員定年等に関する条例制定について、富士川町農園設置等に関する条例の制定について、大韓航空機撃墜事件に関する意見書等十三議案が審議され、すべて原案どおり可決されました。

町長の一般行政報告

常葉町長は一般行政報告に入る前に「たくさんの事務事業を執行してきた中であって、国の厳しい財政事情下での地方行政運営の厳しさを感じましたが、こうした中で、県企業局富士川住宅団地、裏山第一公園造成工事、中央公民館の基本設計着手など、大型事業の昭和59年度見透しがついています」と、昭和59年度に向けての基本方針を語りました。

またガス、電話などの埋設工事も別途発注されました。これらの工事も現在順調に進み、団地の将来図を思わせるような形となつてきていますので、地域の発展に寄与する日も遠くはないと思われれます。今後は、団地の完成を目ざして、企業局と十分協議していきたいと思つています。

富士川身延線道路改良工事について

本年度の当初予算に伴う用地費は、順調に消化されています。事業費の追加要望についても、その後県と度々折衝の結果、二千四百万円増額されました。現在、それに伴う用地の交渉を行っています。何と云っても本計画の実施については、用地買収が先決問題

であり、総論賛成、各論反対の時は過ぎています。従つて、地権者のみなさんの一日も早い了解を戴くためには、各界のみなさんのご協力を得なければ今後の見通しは非常に厳しいと言わざるを得ません。

一億四千四百万円で、4年間の継続事業として計画されています。本年度は初年度であります。園地造成は一部終了しましたが、引き続き進入路、園地の整備を過日発注しました。

吉津川の砂防計画について

本川の砂防工事については、昭和56年度に県が一部測量を行いました。昭和57年度においては予算の関係で見送られていたが、本年度になりまして動きが出てきています。

一般会計の補正内容

現在のところ、東屋の建設、遊具の設置、広場の造成等は大体終了しました。林道小塚線も1月末には完成が見込まれていますので、今後の利用増をおおいに期待しています。

来年度も厳しい事業費が予想されますので、みなさんの尚一層のご協力をお願いいたします。野田山健康緑地公園について、昨年度のハイキングコース整備完了に続き、本年度大師広場を中心とした周辺整備も順調に進んでいますので、間もなくこの周辺は全面的に完成することと思ひます。

昭和59年度ことしの目標について

町の今年の目標については、3年間「笑顔であいさつ 明るい町に」を決め、特に昭和58年度は、青少年非行防止のため、サブタイトルをつけて実践してきました。12月20日に実行委員

昭和59年
町のことしの目標
「笑顔であいさつ
明るい町に」

昨年の12月20日(火)「町のことしの目標」実行委員会が役場で開かれ、昭和59年の町の目標は、4年連続「笑顔であいさつ 明るい町に」に決まりました。

同委員会は、まず昨年の実施状況の発表や反省などをおこない、つづいて「ことしの目標の選定に入り、各委員熱心に討議を重ねた結果、同目標のサブタイトルについては、59年は特に決めず、各区、地域で実践できるものを決めて、推進していくことにしました。今後、同委員会では、目標

あたたかい
善意ありがとう

「みんなそろつて明るいお正月を」をスロガーンに、昨年12月いっぱい歳末助け合い運動がおこなわれた結果、みなさんから次のようなあたたかい善意が寄せられました。

◎昭和58年歳末助け合い運動
募金状況

- 一般世帯(三十二区) 八十五万七千七百円
- 団体(五十六団体) 百三十二万二千七十六円
- 篤志家(十一人) 七万一千六百七十四円
- 総額 二百二十四万四千四百五十円
- 物品 紙おむつ一千枚、石けん三十二個、ティッシュペーパー十三個

◎募金はこう使いました

- 野外施設(二十九カ所)・施設入所者(六十一人)へ 四十五万円
- 町内低所得世帯・在宅障害者(九十四人)などへ 九十一万七千八百八十円
- 町内五団体・その他へ 八十八万三千六百七十円
- 物品は町内十六人に配分

非常事態
昭和58年交通事故倍増

昭和58年、交通事故撲滅運動が、みなさんの協力で幅広く展開されましたが、昭和57年に比べ、人身事故、物損事故とも異状に多発し、43件・52%増加、総件数で126件発生しました。

発生した事故は、交差点での出会いがしらの衝突や追突事故が最も多く、安全速度義務違反、ハンドル・ブレーキ操作誤り、脇見などが原因となっています。

非常事態 昭和58年交通事故倍増

みなさんも、交通安全ルールを再認識し、安全運転を心がけ、一人ひとりが事故を起こしたり被害者にならないよう十分に注意しましょう。

今年も、「広報ふじかわ」では、町内からの交通事故「0」を目指し、交通安全運動や発生した事故状況などをみなさんにお知らせしていきます。

新しい民生・児童委員が 決まりました

昨年の12月2日民生・児童委員の辞令交付式が役場で行われ、新しい22人の同委員に、厚生大臣の委嘱状が手渡されました。

同委員は、低額所得者の自主更正への援助をはじめとして、老人や母子、身体障害者などの福祉向上を図るために、また社会福祉諸施策への積極的な協力をするなど、幅広い奉仕活動に努め、今後3年間活躍されることになりました。

同式にあわせ、永年に亘り同委員として功績のあった三氏に、厚生大臣、県知事、町長から感謝状や記念品が贈られました。

新しい民生委員 (敬称略)

▽木島 常盤登 ▽相生町 篠田天秀 ▽上町 水口大禮 ▽舟山町 植松勝子 ▽坂下 伏見益司 ▽旭町 齋藤万平 ▽川坂 伊東す江の ▽新町 若月忠雄 ▽新町本町 森中鉄雄

▽宮町 浦田武子 ▽小池 中川晴二 ▽本通一 尾崎光子 ▽本通四 渡邊慎一 ▽東町一 植松勝 ▽東町二 太田義雄 ▽南町一 市川政男 ▽南町二 芦川希九郎 ▽富士見町 佐野謹子 ▽八幡町 西森千鶴江 ▽清水町 白井滋賀子 ▽俣下町 石川幸男 ▽大北町 大津かほ子

◎厚生大臣、県知事、町長感謝状及び記念品受彰者

○相生町 篠田彌天 ○本通四 坪内隆子 ○富士見町 清水壽枝

事故種別	歩行者		自転車		幼児		小児		中学生		高校生		老人		無免許		飲酒		自動車	
	件数	前年																		
歩行者	17	(14)	3	(7)	2	(3)	3	(2)	1	(1)	1	(1)	11	(11)	0	(2)	2	(4)	4	(2)
自転車	10	(13)	11	(9)	1	(0)	1	(1)	0	(1)	1	(1)	11	(8)	2	(0)	4	(2)	10	(3)
幼児	2	(3)	1	(2)	2	(2)	5	(5)	0	(1)	0	(1)	0	(0)	1	(0)	4	(2)	10	(3)
小児	7	(5)	2	(2)	2	(2)	5	(5)	0	(1)	0	(1)	11	(8)	2	(0)	4	(2)	10	(3)
中学生	3	(2)	1	(1)	2	(2)	5	(5)	0	(1)	0	(1)	11	(8)	2	(0)	4	(2)	10	(3)
高校生	1	(1)	1	(1)	2	(2)	5	(5)	0	(1)	0	(1)	11	(8)	2	(0)	4	(2)	10	(3)
老人	11	(11)	0	(0)	1	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	11	(11)	0	(0)	2	(0)	4	(2)
無免許	0	(2)	2	(0)	1	(0)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	11	(11)	0	(0)	4	(2)	10	(3)
飲酒	2	(4)	3	(2)	4	(3)	4	(3)	1	(1)	1	(1)	7	(3)	1	(0)	0	(0)	4	(2)
自動車	4	(2)	3	(1)	1	(0)	1	(1)	0	(0)	0	(0)	11	(11)	2	(0)	4	(2)	10	(3)
原動機付自転車	16	(12)	3	(1)	1	(0)	1	(1)	0	(0)	0	(0)	11	(11)	2	(0)	4	(2)	10	(3)
計	71	(55)	55	(28)	59	(63)	55	(44)	59	(49)	59	(49)	59	(49)	59	(49)	59	(49)	59	(49)
計	224	(181)	143	(109)	189	(167)	143	(109)	189	(167)	143	(109)	189	(167)	143	(109)	189	(167)	143	(109)

注：() は前年の数字

路線別	国道		富士川身延線		富士山バイパス線		富士山延長線		一般道		その他	
	件数	前年	件数	前年	件数	前年	件数	前年	件数	前年	件数	前年
国道	25	(17)	14	(11)	13	(14)	23	(32)	11	(17)	7	(9)
富士川身延線	19	(18)	16	(9)	13	(14)	11	(17)	6	(4)	7	(5)
富士山バイパス線	3	(2)	7	(2)	2	(1)	2	(1)	2	(1)	2	(1)
富士山延長線	3	(2)	7	(2)	2	(1)	2	(1)	2	(1)	2	(1)
一般道	24	(15)	17	(6)	21	(17)	21	(17)	21	(17)	21	(17)
その他	0	(3)	1	(0)	2	(0)	2	(0)	2	(0)	2	(0)
計	71	(55)	55	(28)	59	(63)	55	(44)	59	(49)	59	(49)
計	224	(181)	143	(109)	189	(167)	143	(109)	189	(167)	143	(109)

事故種別	歩行者		自転車		幼児		小児		中学生		高校生		老人		無免許		飲酒		自動車	
	件数	前年																		
歩行者	81	(71)	0	(2)	55	(28)	59	(63)	55	(44)	59	(49)	59	(49)	59	(49)	59	(49)	59	(49)
自転車	71	(81)	0	(6)	55	(44)	59	(63)	55	(44)	59	(49)	59	(49)	59	(49)	59	(49)	59	(49)
幼児	2	(3)	1	(2)	2	(2)	5	(5)	0	(1)	0	(1)	11	(11)	0	(0)	4	(2)	10	(3)
小児	7	(5)	2	(2)	2	(2)	5	(5)	0	(1)	0	(1)	11	(11)	2	(0)	4	(2)	10	(3)
中学生	3	(2)	1	(1)	2	(2)	5	(5)	0	(1)	0	(1)	11	(11)	2	(0)	4	(2)	10	(3)
高校生	1	(1)	1	(1)	2	(2)	5	(5)	0	(1)	0	(1)	11	(11)	2	(0)	4	(2)	10	(3)
老人	11	(11)	0	(0)	1	(1)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	11	(11)	0	(0)	2	(0)	4	(2)
無免許	0	(2)	2	(0)	1	(0)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	11	(11)	0	(0)	4	(2)	10	(3)
飲酒	2	(4)	3	(2)	4	(3)	4	(3)	1	(1)	1	(1)	7	(3)	1	(0)	0	(0)	4	(2)
自動車	4	(2)	3	(1)	1	(0)	1	(1)	0	(0)	0	(0)	11	(11)	2	(0)	4	(2)	10	(3)
原動機付自転車	16	(12)	3	(1)	1	(0)	1	(1)	0	(0)	0	(0)	11	(11)	2	(0)	4	(2)	10	(3)
計	224	(181)	143	(109)	189	(167)	143	(109)	189	(167)	143	(109)	189	(167)	143	(109)	189	(167)	143	(109)

昭和58年 蒲原警察署管内の交通事故発生状況

はたちの春 おめでとう 成人式が盛大に

1月8日第33回目の成人式が成人者25人の81%にあたる18人が出席し、町立第一小体育館で盛大に行われました。

今年も式典はパーティ型式で行われ、井出友博さん、太田理恵さんが、力強く「はたちに思う」を述べた後、成人者を代表して、井出さんに常葉町長からアルバムの記念品が、太田さんに佐野節子婦人会長から携体用ブラシの記念品が贈られました。

その後は、熱いコーヒートークの前に、また青年団のアトラクションにさかんに拍手を送りながら、中学時代の恩師を囲み、思い出話を花を咲かせ、和気藹々の雰囲気でした。

当日出席した成人者は「式典というので固い感じをもって出席しましたが、会場がテーブル型で、久しぶりに会える友だちとも自由に話ができてとても良かった。来年も、ぜひこのようなかたちで行ってほしい」と話していました。

また、この日には、成人式を祝い、恒例の各区対抗伝大会が、役場前から22歳のコースで行われ、寒風をつけて力走する8チームの選手に、沿道から暖かい声援がおくられていました。

一位 相生町 34分51秒
二位 南町一・二区 35分15秒
三位 宮町 35分34秒



「はたちに思う」



井出友博さん (清水町)

成人式を迎えたということで、正直いって、今あわてています。こんなに早く二十歳になってしまふものかと、半ばあきらめも混ざった形で、大あわてしています。というのも、一人前になる... 社会が私たちを一応一人前として扱うようになることへの期待と、その一方で一人前とみなされた私は、社会の期待に答えるべく一体何をしたら良いのだろうか... という力みめいた不安が頭をもたげるからなどと成人するにあたっての心情を述べれば良いのですが、正直言って、私自身「成人」という言葉にまだピンと来るものがあります。同じような毎日を送り振り返ると、既に二十年という年月が経ち、周囲が「成人だ成人だ」とにわかには騒がしく



太田理恵さん (旭町)

「二十歳」という言葉には、何ともいえないさわやかな響きを感じます。十代と違って二十代ともなれば、「ああ年をとったなあ」となんて、少々おぼん臭いことも多いたくなるけれど、なぜか「二十歳」には十八や十九、そして二十一や二十二歳にはない初々しさがあるように思われます。実際のところ「二十歳の誕生日がきたからもう成人

なります。何か、ただ未成年の域から放り出されたような不安な状態です。しかし、成人としてはピンとこなくても、大人としての責任については、そろそろわかってきているつもりです。こうして今日、成人式を催していただき、何か初々しい気分を味わわせていただいたところで、これからは社会人としての責任、大人としての責任について、折にふれ以前にも増して、本当にまじめに考えて行こうと思います。

「だよ」といわれて、十分納得できるほど二十歳を実感していません。私の場合、すでに東京で下宿生活をしていて、ほとんど自分の判断で行動しているという反面、生活にかかる金銭的負担は完全に親に依存しているわけで、少なくともあと三年は親のすねをかじって生きていくでしょう。しかし、社会は甘くはありません。これから先、新聞に名前が載るとか保護者の承諾がいらなくなるとか政治に参加できるとか...。つきつめて考えていくと、だんだん責任が肩に重くのしかかってくるような気がします。

私が思うに、「成人になる」ということは、社会から一つの戦いをいどまれたことではないでしょうか。その戦いに勝つためにも、年齢ばかりが増えていくのではなく、内面的にも充実した人間になっていきたいと思えます。

最後にもう一つ、中学校の卒業式で述べた父母への感謝の辞を思い出し、新たに二十年間育ててくれた父母への感謝の気持ちを忘れてはいけないと思えます。



私の今年の目標

一小五年(木島) 佐藤昌代さん



私はねずみ年生まれで、今年
は6年生になります。私が、今
年がんばってやりたいことは三
つあります。

一つは運動です。一月には、
マラソン大会があるので、去年
よりも、五、六番は速く走るこ
とです。

二つ目は勉強で、6年生にな
ると、今よりもいっそうむずか
しくなるので、一生けん命勉強
したいと思います。今、習字と
珠算を習っているのですが、今年も
続けたいです。

三つ目は、6年生になるので、
下級生のめんどうをよく見るこ
とと、家の手伝いも進んでやる
ことです。

いつも年の始めにはやりたい
ことを決めますが、なかなかで
きません。今年こそは一生けん
命努力したいと思っています。

今年こそ良い年に

新町本町 宇佐美三三子さん(35)

結婚した年がちょうど子年
でした。あれから、もう十二年の
歳月が流れてしまいました。月
日のたつのはほんとうに早いも
のだと思います。二人の子ども
も、五年生と三年生に成長し、
今は元気に通学しています。あ
まり変化のない日々ですが、こ
れが幸福なのかなと感じます。
しかし、昨年は色々なできごと

ぼくの年だ チュー

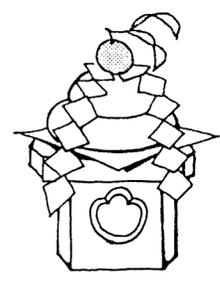
二小六年(八幡町)木伏伸司くん

今年、ねずみ年でぼくの年
です。

この4月から中学生ですから
がんばらなくてはならないと
思っています。中学校は、クラ
ブとか勉強とか、とてもたいへ
んどきいています。それに三月
で小学校ともさよならしなくて
はならないので、三学期は自分

健康で明るい一年を

本通り一 田辺喬章さん(47)



昨年末に年賀状を書きながら
ふと思つた。来年は子年である。
つまり今年私の干支にあたる
年になる。
考えてみれば、不惑など、と
うに通り過ぎて五回目の干支を

2月のテーマ わが「母校・恩師」



提言者 曾我久子さん(37) (東町二)

月朝夕に富士嶺を……月
私の母校「富士川第一小学校」
の校歌です。(この校歌は私が
卒業する少し前にできました)
富士川町に生れ、育ち、縁
あって町内の
人と世帯を持
ち、町内を何
度か引越した
後、この東
町に根をおろ
した私です。

地元にいる
せいか、スー
パーで、街角
で、また参観
会と、同級
生とはよく逢
います。
お互いの子
どもがあの頃
の自分たちの
年齢になったのに、相も変わ
らず昔の呼び名の「くん」で
あり、「ちゃん」であり、また
旧姓でもあるのです。まわり
の人が聞いたらおかしいよう

迎えようとしていたのである。
にも拘らず、どこかの国の宰相
のように平常心などといった心
境からはほど遠く、未だに惑
いっばなしである。

気持の上では若いつもりでい
るのだが、最近少し長い階段
を昇ったりすると息が切れたり
する。体力的な後退も、まだ若
いという気持(というよりは願
望かも知れない)に反して感ず
るようになってきた。

信長ではないが人生五十年の
時代なら、五回目の干支を迎え
て感いっばなしも、いささか困
ることかも知れないが、今や人
生七十有余年、感いのはと
りあえず措いても、さして不都
合は無かるう、まずは命あつて
の物種、と勝手な解釈をして、
今年体力の後退を少しでもく
い止めるよう、何か体に良いこ
とをしたい。そして病気にわか
らないよう、怪我をしないよう
心がけ、健康で明るい一年を送
りたいと考えている。

一九八四年に

思ふこと

一小五年(本通四)鈴木利香さん

今年はずみ年で私の年です。
五年生だから、今までは上級生

にお世話になっていましたが、
今年六年生になるので、あま
えてはられないかと思っていま
す。でも、計画をたててもなか
なかな思うように実行できませ
ん。一年間はあつとすぎてしま
います。

私たちの町、富士川町はとつ
ても良い町です。富士山は良く
見えるし、学校にはいつも花が
きれいに咲いています。それは
毎年秋になると、一年生をはじ
め六年生までの生徒全員で山に
行き、落葉をかき集めてきてふ
よう土を作り、花の種をまいて
水をかけたり草をとったりして
世話をするからです。毎朝学校
に行つて花だん一ぱいの花を見
るのが楽しみです。

ことしの抱負

南町一 川崎和喜子さん(35)

生まれて三回目の年女、気持
ばかりは二十三歳。自分の年を
考えるとなんだかがっかりして
しまう。一回目のねずみ年は小
学五年生。二回目は結婚してす
ぐ。三回目を迎えた今年の子ど

も三人のお母さん。この次のね

ずみ年には孫がいるかもしれな
い。ねずみ年の女性は食べるこ
とに困らないと亡き祖母はよく
いつていた。



幸せの中でヌクヌク過してき
た私、身も心もフックラふくら
んでしまった。

今年こそ、シェーブアップで
もつと変身を心がけよう。心は
もつと暖かくふくらめていき

い。子どもとの対話の時間もた
くさん取りたいし、手作り料理
のレパートリーもふやしたい。
地域活動にもできるだけ参加し
たいし、パートの仕事もがん
ばつてやりたい。なんと欲ばり
な自分なのだろう。でも年頭に
あたり、希望がたくさんあるこ
とは幸せなことだ。
でもやっぱり一番願うことは
家族みんなが健康で、明るく楽
しく毎日を過ごしていければ幸
せです。

子年に思うこと

俣下町 斉藤綾子さん(23)

一九八四年は子年、ねずみと
言えば、そのすばしこさなどか
ら働き者といった印象を与え、
縁起のよい動物とされながらと
かく憎まれがちです。穀物を食
い荒らすなど人間の害になる行
為をするからなのでしょう。か
不思議なものですね。一方では
よいとされ、見方を変えた一方
では悪とされる。しかし、これ
はとっても大切な事だと思つて
います。私は、私を囲む大勢の人
間の中で生活しています。一人
ひとりの感じ方、考え方によつ
て、同じ時に同じ物を見ても自
然と表現の仕方は変わってくる
はずです。

私は、今年二四歳になります。
就職して三年が過ぎました。無
我夢中で過ぎた三年間、何とか
一人前の仕事をしよう、何事
にも、自分の目で見たがままに
感じ、判断していたような気が
します。三年をひとつの節目と
し、今年からは、人の意見にも
耳を傾け、今までもよりも、も
うひとつ奥の物に目を向けてい
けるよう、新たな気持ちで、努力
していききたいと思つています。



2月のテーマ わが「母校・恩師」

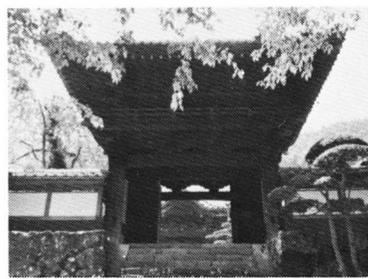
- 字数 400字づつ原稿用紙一枚以内
- 締切日 2月6日(月)まで
- 投稿先・問合せ先 富士川町役場・総務課 岩淵刈番地
- 注意事項 匿名者の原稿は掲載しませ
んから、必ず住所・氏名・年
齢を記して、締切日までに
投稿してください。



原方の双体道祖神
 村や家に悪霊が入ってくるのを塞ぐ神であると同時に、道路を守る神であり、旅人の安全を守る神となった道祖神は、また子どもたちの守り神ともなり、縁結びの神ともなっている。その昔、伊弉諾尊が火の神を生んで死んだ伊弉冉尊を尋ねて黄泉国にゆき、そのみにくい姿を見て恐れ逃げ帰る途中道を塞いで難をのがれたという神話と、村の境で邪鬼が村に入るのを防ぐ神、岐神が混合し塞の神となり、中国に古くから伝わる旅の守護神としての道祖神が共に習合して、道祖神、ふなど、さえのかみ、と呼ばれている。

南松野八幡町 県道原方バス停の十字路の北隅に祀られているのが富士川右岸では珍しい双体道祖神である。明和二年乙酉三月十三日造立(1765)原方村と刻銘されている。女神が瓢を持ち、男神が盃を持った祝言像で享保頃(1716)から盛んに造立され、長野県安曇野地方に多く見られる。元は旧甲州街道沿いにあったが昭和の初め頃現在地に移されたもので、その時、元気の若者が担いで運んだので「ひっかついてきた神様」とも呼ばれるようになった。けっし

て他村から盗んできたものではない、風化されているが原方村造立と刻まれているのがかすかに読みとられる。富士川以東では道祖神信仰は盛んであり、石仏石塔の造立も多い、道祖神の祭りも小正月に行われる場合が多く、子供が主役となるほど焼きの行事との関連も深い。当地区にはかような風習は残されていない。(芦川守正)



山門正面



昭和初期の山門

建造物 妙松寺 山門
 昭和58年10月5日指定
 指定番号 16号
 法王山妙松寺(大津華文住職)は今から、595年前の康応元年に日什上人によって、北松野おやしきに創立され、429年前の弘治元年に現在地へ移ったといわれています。
 同寺の山門は、天保年間、1830(1843)に建築されたといわれ、安政の地震で両袖が倒壊しましたが、その後補修されています。建築当時は草葺きでしたが、昭和6年改修され、現在の瓦葺きの姿となりました。この山門は、二階が銅鐘を

つるした鐘撞堂として使用され、一階が通行する門となっている。鐘楼門の型で、樫の一枚板の扉二枚、更に間柱との間にぐり戸が付く、一方は二階への階段となつています。そして、同門の主体部の材料はすべて樫であり、一本の樫でまかなえられているといわれています。本柱は35×35cm角の前後に2本ずつ4本、18.5×18.5cm角2本、28×28cm角2本からなり、本柱との間に間柱(17×17cm角)2本があります。同門は、江戸時代末期の建築ですが、町内では唯一の鐘楼門で、草葺きから瓦葺きに替わっても、とても均整のとれた建造物です。

ふるさと探訪

石仏巡礼(五)

原方の双体道祖神

南松野八幡町

ママさん記者が取材中



「富士川地区 子ども世話人会」

希望に満ち輝かしい新春を迎えた1月5日(木)、私たち広報モニターは、富士川地区の小学生の良き指導者として活動している「富士川地区子ども世話人会」会長の若林茂信さんをお招きし、お話を伺いました。

同会は、昭和50年4月1日、従来のお兄さんお姉さん指導者による子ども会活動への指導援助として、17単位子ども会から選ばれた父母50数人によって新たに発足しました。

同会の年間活動は……

①、球技大会の主催。5月に4・5・6年生を対象に、バレーボールとソフトボールを種目として

実施しました。この大会は、限られた学年の子どもしか参加できませんので、今後役員などみなさんと相談し、59年度は、1・2・3年生を対象としたベイスポールキック的な種目を取り入れ、全学年的な行事として運営していきたいと、また、学校などとも話し合い7月の行事としたいと話していました。

②インリーダー研修会の主催。由比町にある野外センターを会場に、松野・富士川地区の子ども各60人を対象に、一泊二日で行いました。この研修は、日ごろ会うことの少ない両地区の子どもの親睦を深めることと、インリーダーとしての基本を身につけることなどを目的として行ないました。

その他、ウォークラリーの主催、1月15日の「新春子どものつどい」の後援、2月のインリーダー研修会の後援など、さまざまな行事の活動があります。

最後に、若林会長さんは「今の子どもは、団体プレーや行動力に欠ける面が見え、手にとつて一から教えることも必要です。また



若林会長さんにインタビューするモニター

世話人はみなボランティア活動です。万一事がおきると心配です。保険などがあつたら」と話していました。

非行が低年齢化している昨今、子どもたちの良き理解者として、また、縁の下の力もちとして活躍している役員のみなさんの行動力にはたいへん感心しました。59年度からは世話人会でなく、育成会と名称も変更されるようですが、最後に一言「お兄さんお姉さん、指導者になって、次の世代を担う、子どもたちの輪の中に入ってみませんか」(広報モニター 久保田敬子)

社会教育の自立

くらしの中の音?

一つの音が人に与える影響はさまざまに数限りがなく、場合によっては、人の運命をも左右しかねない重大な音もあれば、日常何気なく聞き流す程の雑音もある。このように私たちの周囲は、大小とり混ぜた音が絶えず出ている世界であるといえる。

オーケストラの研ぎ澄まされた音。鎮守の森から響くうつろな太鼓の音。どちらの音も私たちのくらしの中で、心を沈め感じさせる味わい深さを持つている。仕事の疲れをいやすためにコーヒーなどをすすりながら、レコードに耳を傾ける、それもよからう。ストレス解消とばかりに、ビートのきいたロックを聴くのも、またよいものだ。

もちろん、これらはくらしの中の音ではあるが、太鼓の音一つを除いて他は、複数の音の組み合わせによって旋律として創られたもので、音楽といった方が適切であろう。

私は、かつて底の深い味わいのある音を耳に、今もつて心ひかれる思いにかられる。その音とは、静寂な夜、柱時

計が時を刻む振子の音であり、母が朝早く台所で鳴らすまな板の響きであり、うなりをあげて回るコマの音などであった。この音に共通した点は、単音のくり返しであること。音の出し手の周囲はさまつて静止した状態にあること、さらには、音そのものがくらしの中から直接生まれたものであるという点である。確かに音そのものは、瞬時のうちに途絶えてしまうものが多いが、その中には生活のドラマがあり、深さを秘めていたようにも思う。

今日のはやり歌もむやみに強烈なリズムのみが幅をきかせ、激しい音だけが若者の心をとらえている傾向にある。これも彼等が騒音に囲まれて育つたためだろうかと考えたりもする。

それはともあれ、現代の若者にも、くらしの中に息づく音のドラマを味わうこと、自然の中であすかにしか聞くことができなない、ごく小さな音にも気を留め、耳を貸す態度がほしいと思う。私は、こうした心こそ、きめ細やかで素朴な文化を伝承してきた日本人の源泉であるように気がしてならないのである。

(宮川)

戸籍の窓

昭和58・12・1〜12・31届出

(敬称略)

おめでた

区分	氏名	保護者続柄	新町	山本菜緒	文則	長女
木島	佐藤美沙樹	功	長女	宮町	浅場理沙	幸夫
相生町	齋藤知江	守	長女	小池	野澤奈未	泉
上町	鈴木惠美子	敏弘	二女	〃	岡部奈穂	清
〃	齋藤章裕	晴彦	二男	〃	加藤由美	義明
〃	谷津倉一真	龍三	長男	東町二	池田準也	隆芳
舟山町	龍愛女	成人	長女	南町一	青池祐香	一男

かなしみ

南町一	田上卓美	隆	長女
富士松野	稲葉芳明	忠治	長男
俣下町	田中かおり	博	長女
区名	氏名	年齢	
木島	芦川ふゆ	七五	
野	望月梅吉	七五	
上町	渡邊政雄	六八	
旭町	花田定男	六一	
〃	齋藤つま	七四	
八幡町	清水周作	九〇	
〃	稲葉刃太郎	六九	
俣下町	小川慶子	五七	
四十九町	辻弘行	四九	

お母さんの知恵袋

缶詰やびん詰等の製造年月日表示が六ケタに!!

これまで、缶詰やびん詰等のふたにつけられていた製造年月日は、食品衛生法施行規則やJASの表示方法で、西暦又は昭和下一ケタと月日を合わせて四ケタの数字で表示することになっていました。このため十以降は月だけで二ケタになるためアルファベットを使用していたが、表示がわかりにくいなど消費者からの改善要望が強く、表示方法の改正が行われた。

新しい表示方法では、最初の二ケタで西歴の下ケタか、昭和を表示することになっている。

例、昭和56年7月1日の場合、五六〇七〇一、又は八一〇七〇一

缶詰めやびん詰等の選ぶめやすとして―

- ①製造年月日やJASマークなどの表示を選ぶめやすにする。
- ②缶がさびたり、傷になったりしていないもの、上下が多少へこみかげんのものを選ぶ。
- ③気温の変化や、湿気の少ないところに保管する。
- ④開缶したらなるべく早く食べる。

俳句会

〈文協俳句会〉

宮町 増井 冬木
春が沁みて山河みどりを兆しけり

雪誘ふ風に咲き継ぎ梅紅し
大北町 天野たま

笑ひ仏囲みて蕎麦の花明り
山眠り手もちぶさたの野鍛治かな

南町 法月 幸子
屋根石に薄日すぎゆく時雨かな
掌に乗せし綿虫吹きて返すかな

南町 影島 智子
高原の駅の風花親しめり
雪近し鯉の洗ひのよく締り

南町 田辺つぎ子
小鳥来て冬日躍れる大樹かな

旭町 笠井みち子
短日や鏡見ずして東京へ

清水町 宇佐美裕子
姑を継ぐ秋の片減りに冬耕す

南町 上野みつ子
時雨去り光ひとどめて信玄原

南町 上野 君江
納屋に待つ冬至の南瓜二つあり

南町 望月 洋子
石組みのチャペル染めゆく冬夕焼

一里塚



自分たちの手で稲を育てながら、そこで発見や喜びを友だちと伝え合い、子ども一人ひとりの豊かな発達を促していきたいと願い稲作りに取り組みました。

苗代作り……運んだ土へ水を入れ、漏らないようにみんなが泥だらけになりながら何度もこねました。満足気な顔、顔、

田植え……小さな手で一人一株の苗を植え、子どもたちは登

園後、水が適当かどうか見てから遊んでいます。

稲に花が咲く……8月の登園日に、白くてかわいい花が咲きました。「これがお米になるの？」とどの子どももひどく感動。

脱穀も、子どもたちの手で……一粒も残さず落さず真剣でした。

園全体で収穫祭……自分たちの作ったお米で赤飯パーティーをしました。『ありがとう』教えられた言葉ではありません。ひとりでに出た感謝の言葉でしょう。

長時間にわたる多様な活動の中で友だちと協力してものを作

善意銀行へ寄託

(敬称略)

S 58・12・10〜12・28	雑布九十三枚	舟山町千鳥会	五万七千円
	二万円	清水 龍吉(八幡町)	
	十万円	屋部 行秀(相生町)	
	三万一千二百四十二円	清水地区同盟	
	五千元	立正佼成会富士川支部学生部	
		富士川町建築連合太子会	